

# 図書館だより No. 6

平成24年10月26日発行

秋が深まり、冬の気配が少しずつ近づいているのを感じる季節になってきました。秋といえば、“○○の秋”と色々なフレーズが聞かれますが、2012年、みなさんはどんな秋を過ごしているでしょうか。

これから紅葉が色づき始めます。この周辺だと狭山湖の紅葉が綺麗なようです。また、飯能市の東郷公園や比企郡の国営武蔵丘陵森林公園ではライトアップやイベントが行われるので、足を運んで、紅葉を楽しみながら1日まったりと過ごして頂くのもおすすめです。

さて、せっかく公園へ出かけるなら、手作りのお弁当を作ってみてはいかがでしょう。秋の味覚を楽しめる食材を使ってみるのもよいですね。ひとりで全部作るのは大変だなという人は、友だちに声をかけて1品ずつ作っていくのも楽しそうです。

せっかくの紅葉ですから、カメラを持って行って、写真におさめてくるのもおすすめです。ベストショットを撮ってきてください。



## どんなおかずを作ろうか\*

596-シ 『365日 手づくりのうれしいお弁当』 しらいし やすこ || 著 泉書房

定番のおかずから、旬の食材を使ったおかずや変わり種のおかずまで種類豊富なレシピが紹介されています。おかずだけでなく、主食となるごはんのアレンジがたくさん載っているのも嬉しいポイントです。

どれも簡単に作れるレシピなので、気軽に挑戦することができます。また、お弁当箱への詰め方や色どりの出し方などお弁当の基本も学べます。これを読めば、お弁当作りの初心者さんもきっとおいしいお弁当が作れるはず！頑張ってください。

## \*好きになれば、きつとうまくなる

740-ス 『写真がもっと好きになる』 菅原 一剛 || 著 ソフトバンク・クリエイティブ

カメラのある生活がエッセイ風にならされていて、その中に写真を撮る時のアドバイスが盛り込まれています。そのアドバイスも技術的なものだけでなく、写真を撮る時の気持ちといった内面的なことにも触れています。『大切な日には、かならず写真を撮ってください。すると、それはちょっと特別な写真になるはず。』、『写るといことは、そこに光があるという大きな証明です。』など、写真っていいなと思える言葉がたくさん載っていて、読んでいると、心がホッと癒されます。

## 読書会にみんな集まれ

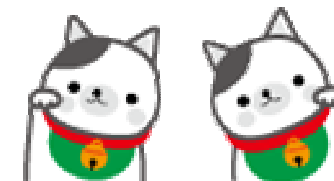
日時: 11月13日(火) 16:10スタート 17:00終了予定

場所: 生徒ホール

「読書会」というと、「読書会とおはなし会って同じじゃないの？」とよく聞かれますが、おはなし会とはまったくの別物です。読書会では、参加者全員で1冊の本について語り合います。「私はこのシーンが一番好きだった」、「わき役だったけど、この人、いい味出してたよね」などなど、ざっくばらんにいろいろな話題で盛り上がってください。「参加したいけど、ひとりで行っていいのかな・・・」と不安な人も読書会はアットホームな雰囲気ですので、安心して参加してください。初対面同士でも同じ1冊の本について、語り合っている内に打ち解けて、楽しい時間を過ごせます。

今回は、芥川龍之介の短編『藪の中』について語り合います。参加を希望する人は、図書館カウンターへ「読書会に参加します！」と伝えにきてください。申し込みの締め切りは、11月6日(火)です。

読書の秋を、いつもの読書とはまた違うやり方で楽しんでみましょう。



## 次回のおはなし会は・・・

日時: 11月22日(木) 16:10スタート 17:00終了予定

場所: 生徒ホール

次回のおはなし会は11月22日(木)に行います。内容盛りだくさんで行なった桔梗祭りとなるおはなし会ですが、今回も聞きに来てくれた人たちに「本って、こんな楽しみ方もできるんだなあ」と楽しんでもらえるよう作品を選び、メンバー一同練習に励んでいます。ぜひ当日は、おはなし会へ足を運んでください。お待ちしております。

また今回は、「読み手として参加したい」という人も大・大・大募集します！！おはなし会の発表を見て、「一度、やってみようかな」と興味を持っている人や人前で話す度胸をつけたいと思っている人、ぜひ読み手に挑戦してみてください。声を出す楽しさを発見できますよ。

参加希望の人は11月6日(火)までに図書館カウンターへ申し込みにきてください。

## 📖 読書週間が始まります 📖

明日から読書週間が始まります。期間は10月27日(土)～11月9日(金)の2週間です。この2週間は電車での移動中、寝る前のちょっとした時間など、いつもより少し読書の時間を増やしてみましょう。

第66回となる今回の標語は「ホントノキモチ」です。この読書週間に併せて、秋草の図書館では「**新書を読もう!**」をテーマとし、みなさんにいつもとはちょっと違うジャンルの本に挑戦してもらおうと思います。新書＝難しそう、というイメージを持っている人にも「新書って読んでみると、おもしろいな！」と感じてほしいなと思い、紹介する新書を選びました。

入門編、初級編、中級編、上級編と4つの段階に分けたので、「このくらいなら読めるかな」と自分に合ったところから読んでみてください。



### ～入門編～

#### \* 今日のどんぶりレシピはどれでしょう？

159-A 『なやむ前のどんぶり君』 明川 哲也 || 著 筑摩書房

「どんぶり君って、一体何者なんだ!？」と思わずにはいられないような書名ですが、本を開いてみると、「我が輩はどんぶり君である」なんて、これまたインパクトのある一文で文章が始まります。

どんぶり君の正体はその名のとおり、熱々のご飯をよそう丼。そのどんぶり君が悩める若者たちに、それぞれの悩みを吹き飛ばすどんぶりレシピを伝授してくれます。「雑魚丼」や「サキイカバター丼」、「歩け歩け丼」など、どんぶり君が紹介してくれるどんぶりは「それ、おいしいのかな…」とちょっと不安になってしまうものばかりだけど、そのどんぶりに込められた意味を知ると、おいしそうに思えてくるから、すごい。気持ちが沈んだ時には、この本を開いて、一杯のどんぶりにパワーをもらってください。

#### \* 誰かのために自分ができること

302-K 『なんにもないけどやってみた』 栗山 さやか || 著 岩波書店

渋谷109のショップ店員から、エチオピアでボランティアと大きな転身を遂げた筆者の栗山さん。何の経験もないまま飛び込んだボランティアの世界。しかも、そこはアフリカという異国の地。言葉もわからなければ、医療の知識もない、だけど、目の前で多くの人が貧困と病に苦しみ、そして、命が消えていく。恵まれた日本での暮らしからは想像できないほど凄惨な現場に立ち、栗山さんはひたむきに自分のできることを考え、行動に移していきます。「なんにもないけどやってみた」、まさにその書名のとおり。

ボランティアという仕事から、人を看取ることの悲しみ、人から優しさをもらう喜び、多くの経験をした栗山さんが綴った等身大の言葉が痛いくらいに心に響いてきます。

#### \* みそ汁の奥深さを知る

596-T 『辰巳芳子 スープの手ほどき』 辰巳 芳子 || 著 文芸春秋

まず二つ質問をしたいと思います。みなさんは毎日、みそ汁を飲んでいますか？みなさんは、みそ汁を作ったことがありますか？

どちらも「はい」と答えられる人はどれだけいるでしょうか。和食の基本ともいえるみそ汁ですが、食文化の多様になった今、その価値は薄れてしまっています。なぜ、みそ汁が重要なのか、そして、おいしいみそ汁はどうやって作るのか、それをこの本から知ってほしいと思います。みそ汁がどんなに奥深いものか、わかるはずですよ。

これから進学や就職でひとり暮らしをすることになる人もいでしょうし、将来、結婚して台所を任されるようになるでしょう。その時のために、みそ汁の大切さを知り、自分で様々なバリエーションのみそ汁を作れるようになってください。

#### \* 野菜はおもしろい

626-I 『キャベツにだって花が咲く』 稲垣 栄洋 || 著 光文社

キャベツに人参、ゴボウに大根、どの野菜の形も簡単に思い浮かべることができると思います。では、これらの野菜がどんな花を咲かせるかを知っている人はいるでしょうか。野菜も植物です。花が咲き、種を残します。当たり前だけど、意外と見過ごしていませんか。

このように色とりどりの野菜たちは私たちにとってお馴染みのものに思えますが、知らずにいることがたくさんあるのです。どんな花が咲くのかも知らなければ、それが根っここの部分なのか、葉の部分なのかよく知らないまま食べている…。それじゃあ、私たちの体を健康に保つのに大いに貢献してくれている野菜に失礼ですよ。野菜のことをもっと知ってみましょう。知らなかったおもしろ知識がたくさん載っていて、読んでいる内に好き嫌いもなくなってしまいそうです。

#### \* 相手に伝わる文章を書くには

816-C 『書くことが思いつかない人のための文章教室』 近藤 勝重 || 著 幻冬舎

「思っていることを書けばいい」、「自分の体験を書けばいい」、そうは言われてもそれが難しいから文章を書くことは難しいのですよね。でも、「難しい」から、「書けない」のではなく、文章の書き方を掴めていないだけなのです。何も思っていない人も体験がない人もいません。要はそれをどんな風に引き出し、書いていくか、なのです。

この本では、みなさんが文章を書く時に、苦労しているであろうポイントに対して、ひとつひとつアドバイスをしてくれています。アドバイスを読むごとに、今までの文章は何となく書いていた部分が多いということに気づかされます。随所に読者へ向けられた問題が載っているので、読んで納得するだけでなく、文章を考える練習をしながら、伝わる文章の書き方を身につけてください。

## ～初級編～

### \* 図書館の使いこなし方、教えます

015-タ『図書館で調べる』 高田 高史 || 著 筑摩書房

今、多くの人がインターネットを使って調べ物をしています。しかし、インターネットには不確かな情報も流れており、信ぴょう性に欠ける部分があります。そこで登場するのが図書館です。図書館は読書の場であるだけでなく、情報収集をするのにも最適な場所なのです。

この本では、図書館の本の並び方、“レファレンスサービス”の活用方、インターネットと本を併用した情報の検索法など、調べ物をするための基本となる図書館の使い方を詳しく教えてくれます。また、目的の情報まで辿り着かない時のひと踏ん張りの仕方も載っていて、どう工夫して調べ物をしたらよいかのかわかります。まだまだ知らなかった図書館の底力を知ることでもできますので、図書館司書になりたいと思っている人にもおすすめです。

### \* 宗教のこと、どれくらい知っていますか？

162-ア『ものがたり宗教史』 浅野 典夫 || 著 筑摩書房

私たちの暮らしと密接な関わりを持つ宗教。しかし、現代に至るまでの宗教史がしっかりと頭に入っているという人は少ないのではないのでしょうか。

この本では世界の主要な宗教を中心に宗教史をわかりやすく教えてくれています。宗教史を知ることで、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教、仏教、それぞれの宗教がどのような信仰を持っているのかということにも理解を深めることができます。

宗教を知るというのは、難しいことのように感じますが、世界中の多くの人と接していく上で基本的な知識として持っておくべき事項です。自分の持っている知識がしっかりと正しいものかを再確認しつつ、新しい知識を増やしていきましょう。

### \* 「はい」はイコール「イエス」ではない??

361-エ『「すみません」の国』 榎本 博明 || 著 日本経済新聞

日本で暮らす私たちの口から普段、意識することなく出てくる「すみません」という言葉。しかし、驚くことに、こんな風にすぐに謝る習慣がある国はとても稀なのだそう。「えっ、そうなの」と、ここで驚いているようではいけません。この本には、外国人から見ると意味不明だという日本的コミュニケーションによって起こるコミュニケーションギャップが書かれていて、「この相槌がこんな風に受け取られているなんて！」と思いがけない事実が書かれていて、驚きの連続です。

『「はい』という言葉は必ずしも『イエス』とは限らない』という一文など、「確かに…」と頷けることが多く、客観的に見た自分たちを知ることができます。また、国際社会における日本の在り方についても深く考えさせられるので、これから社会人になるみなさんの役に立つ本だと思います。

### \* タワー大国 日本

523-ス『このタワーがすごい!』 鈴木 重美 || 著 中央公論社

日本のタワーといえば、東京タワー、もしくは、スカイツリーと答える人が多いでしょう。しかし、日本のタワーはそれだけではありません。横浜に行けば横浜マリニタワー、大阪に行けば通天閣と各地に名物タワーが存在しています。さらには、京都・東寺の五重塔、奈良・法隆寺の五重塔、これらも立派なタワー(塔)です。そう言われると、確かに日本中あちこちに色々な形をしたタワーがあることに気がつきますよね。

そんな日本のタワーについて書かれたのがこの本。「忘れてはならない名塔たち」の章で日本を旅したような気分を味わったり、「今は亡き塔」の章ではしみじみ哀愁を感じたりと、思いがけず楽しみながら読んでいる内に、ずいぶんとタワーに詳しくなれそうです。

### \* 敬語を楽しく学んでみよう

815-カ『すべらない敬語』 梶原 しげる || 著 新潮社

普段から使っているけれど、なかなか使いこなし切れない敬語。テキストを開いても、どんどんややこしくなるばかり。しかし、複雑すぎる、難しすぎると思っているだけでは、いつまで経っても上達はしません。まずは、自分にとって役に立つ敬語を身につけていきましょう。

敬語の本というと、堅苦しいイメージがあるのですが、これは随分と雰囲気の違いの本です。思わず笑ってしまうような話や私たちもよく知っている有名人の会話の中の敬語を用いて、読みやすく、理解しやすく、「敬語ってどうやって使っていけばいいんだろうね」というところを教えてください。また、敬語だけに限らず、どういう話し方が人を惹きつけるのか、人との関係を円滑にできるのかということ学んでいくのにも役立つ本だと思います。

### \* 聞き上手になるためのコツ

914.6-ア『聞く力』 阿川 佐和子 || 著 文芸春秋

みなさんの周りには“聞き上手”な人はいますか。「あの人には何だかいつも以上に自分のことを話しちゃうんだよね」と、そんな聞き上手な人は、相手の心を開くのが上手な人です。

では、聞き上手な人はどんな聞き方をしているのでしょうか。キャスターとして、多くの人にインタビューをしてきた阿川さんも、実はインタビューが下手だったのだそうです。この本に書いてあるのは阿川さんが聞く力を身につけるまでに体験してきたこと、そこから学んだことです。聞き上手な人がどうやって話を聞いていたかを自分なりに検証してみたり、よく聞くことで話題を広く繋げていけることを発見したりと、読んでいて、「ああ、こうすればいいんだな」と参考になることがたくさんあります。読んだ後には、今までよりも意識して「聞く」ことができるようになるはずでしょう。

～中級編～

\* 事実は小説より奇なり

230-キ『本当にこわい宮廷の物語』 桐生 操 || 著 中央公論新社

『本当は恐ろしいグリム童話』（KKベストセラーズ）で有名な桐生さんですが、“精神分析的解釈”と“歴史的解釈”を参考にして桐生さんなりに表現したグリム童話は、今まで知っていた話からそういう裏の意味もとれるのかと、驚きながら楽しんで読めました。

そんな彼女が新しく選んだ題材が、西洋の宮廷に隠されたこわい物語です。事実は小説より奇なり！とは言いますが、史実に基づいた知られざるエピソードには、支配者とその周囲にいる人々の絢爛たる世界に繰り広げられる、残酷で哀しい愛と憎しみの物語にあふれています。

フランス、イギリス、スペイン、ロシアと、西洋の宮廷で繰り広げられた人間の恐ろしいドラマは、意外と現代の私たちの生活にも垣間見られるかもしれません。

\* 平成と江戸の値段比べ

337-マ『江戸の卵は1個400円！』 丸田 勲 || 著 光文社

当時、人口100万人を超える世界一の大都市だった江戸。そんな江戸の物価を現代の貨幣価値に換算して、江戸の暮らしを値段で見えていきます。お蕎麦320円など、今とそんなに変わらないものもあれば、カステラが9000円など、「えっ」と驚く値段のものもあって、現代と比べながら読むと、とてもおもしろいです。

100円ショップならぬ、どれでも四文で買える「<sup>しもんや</sup>四文屋」の存在や自由に使える小遣いがなんと19億2000万円だった十二代将軍家慶など、授業では学ばないようなおもしろ話もたくさんあるので、新たな知識を得るのにも使えそうです。暮らしを知っていくと、自然とその様子が目に浮かぶようになります。特に江戸の食べ物屋さんには種類が豊富で、想像しながら読むと「おいしそうだなあ」とお腹が空いてきます。

\* 体っておもしろい

467-ム『生命のバカ力』 村上 和雄 || 著 講談社

この本を開くと、始まるのが遺伝子の話です。「遺伝子なんて、興味がないし、読んでも理解できないよ」と思う人がいても、そこであきらめずにちょっと読んでみてください。人の体が60兆個の細胞の集合体であるとか、すべての生物のDNAの構造は同じであり、つまりカビ類と人のDNAの構造も基本的には同じ、なんていう自分の体のすごい事実を読んでいると、「あれ、ちょっとその先も知りたいな」という気持ちになってきます。

この本のメインとなるのは著者である筑波大学名誉教授である村上先生の研究体験談ですが、その体験談を読んでいると、「自分の体っておもしろいな」と十数年付き合ってきた体の未知な力にワクワクしてきます。

～上級編～

\* 悩みと付き合う

141-カ『「悩み」の正体』 香山 リカ || 著 岩波書店

人それぞれ、形は違いますが、何かしらの悩みを抱え、私たちは生きています。

この本では、精神科医として働く香山さんが、多種多様にある悩みを、ひとつひとつ解きほぐしていきます。『悩みは、あってあたりまえなのだ。悩みとつき合ってこそ、厚みのある人生になる』と香山さんが述べているように、悩みのない人生などないのだから、私たちに必要なのは悩みとどうつき合い、どう折り合いをつけていくかなのでしょうか。

心が潰されそうになっていた悩みも、この本を読みながら客観的に、そして、冷静に解析してみると、「こんな考え方もできるんだな」と抜け穴を見つけ出すことができるかもしれません。悩みに押し潰されることなく、よりよく生きるためヒントを探すのに役立ててください。

\* 3. 11以降を生きていくために

369-ヨ『復興の精神』 新潮社

「このようなときに何をすればいいのだろうか。このようなときに何かすべきなのだろうか。このようなときに編集などという仕事に意味があるのだろうか」

編集という言葉をそれぞれの持つ仕事に置き換えれば、東日本大震災当時、被災地から距離のある地に住んでいた多くの人々が抱えた、胸を締め付けるようでいて今にもとりあえず駆け出したい気持ちになる疑問だったのではないのでしょうか。

この未曾有の事態に、日本に暮らす全ての人々が受けた心の痛手、意識の底の変化。

編集という仕事にある者が見出したのは、今だからこそ読者にじっくりと伝えたい 9 人の著名人の熱のこもった話。「これから何をすればいいのか。これから何を考えればいいのか。これからどう生きていくべきか」を見出すきっかけとなる1冊です

\* 美しい女性になるために必見

385-イ『日本人 礼儀作法のしきたり』 飯倉 晴武 || 著 青春出版社

日常の様々なシーンにおいて、しっかりとその場に適した礼儀作法ができるということは、みなさんにとって大きなプラスになることです。しかし、普段ちゃんとできているつもりでいる作法もこの本を読むと、実は微妙に間違っていたことに気づかされます。

例えば、訪問先で靴を揃える時は、ただ揃えればいいわけではなく、相手にお尻を向けられないよう体を斜めにして行うのが正しいやり方だそうです。みなさんはちゃんとできているのでしょうか。ただ、「こうすればいい」というのではなく、相手に対して失礼のないようにするには、どうすればいいのかを考えたふるまいが礼儀作法の基本となります。この本では、ひとつひとつの作法に込められてた“意味”の部分も説明されているので、相手への気遣いを込めて礼儀作法を学べます。